

Title	サー・キリアム・テムブルの経済論(下)
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.9 (1922. 9) ,p.1262(58)- 1289(85)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220901-0058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

サー・キリアム・テムブルの經濟論(下)

高橋 誠一郎

四

恰も此の國に人民を招致せる最初の二誘因が其の都市の安固と其の統治の本質に存するが如く、他の二者は時の経過と其の富強の増大に伴れて生じたる所のものなり。一は彼れ等が軍事上の成功、周到なる折衝、堅實なる畫策、國內に於ける平安靜寧の永續、並びに彼れ等が是に由りて基督教國及び其の君主の間に贏ち得たる地位より生じたる其の政府の威信にして、他は日々觀光の外客を多數に吸引しつゝある其の國家の華美莊麗なり。公衙の莊嚴、私建築美の獎勵、樹木の植付けに依る都市の飾美、祭禮、神事の舉行、大市場若しくは祭市の設營及び世界の耳目を聳動せしむ可き興行物の計畫によりて、出來得る限り頻繁に遠近の諸國より閑忙兩様の人民を多數に招致するも亦た國家に取りて賢明なる政策の一端と云ふと

得可し。(Ibid., pp. 220-223)。

斯くて和蘭人の間に勤勉の風を誘入馴致し、是れに由りて凡ゆる種類の製造工業を誘致發達せしめ、併せて節儉の俗を養ひ、斯くて又た一般的富を招致せる其の人口の夥多を以て彼れ等が實業の主たる基礎と觀たる Temple は是れ等のものに次ぎて彼れ等の間に實業を進め且つ獎勵せる他の主要なる事情を列舉せんことせり。先づ第一に擧ぐ可きものは利子の低廉及び土地の高價なること是れなり。是れ等のものは人口夥多の結果にして、多額の貨幣をして運河の開鑿、橋梁、磴道の修築、砂丘の引均し、沼澤の排水等の如き普く有利なる計畫に供用せしむるの因なり。第二は銀行の效用にして、是れに由りて貨幣を保證し、一切の支拂を容易ならしめ、交易を敏活ならしむるを得るなり。第三は賣買の登記にして Charles 五世の時代に此の地並びにフランダースに誘入せられて、一切の購入を安全ならしむるに至れるものなり。第四は總べての偷盜に對してのみならず、一切の詐欺、凡ゆる公手形の偽造並びに普く一般の乞食に對するも尙ほ法の峻嚴なることなり。爰に擧げたる最後の者は労働の可能なる否とに由りて、貧勞所 (workhouse) 若しくは

救養所(hospital)に送らるゝなり。第五は平時に於てすら各地に對し(殊に海峽地方に對し)商船隊の護送を行ふことにして、是れに由りて其の貿易をして幾多不慮の事變より免るゝを得せしめ、其の國民の海外に於ける信用を高め、又た海員若しくは戰艦を増加するを得せしむるなり。第六は其の關稅の低率にして之れが支拂の容易なることなり。そは其の港津の自由と相俟つて、内外人を誘ひて雷だに市場としてのみならず、又た倉庫として此の地に貨物を齎さしむるなり。第七は其の業務の管理整然たり且つ慎重なることにして、是れに由りて其の貨物は海外に於て信用を博するに至るなり。そは初め峻嚴なる法律及び刑罰によりて誘致せられたるものなるが、後には習慣と化するに至りしものなり。第八は自ら實業を行ふか、又たは其の家族が是れに由りて繁榮に赴けるか、或ひは自ら他人の商取引に干與することに幾分の興味を有するか、若しくは其の精神も實在も全然實業より成れる人々によりて政府が管理せらるゝことにして、是れに由りて時々の必要に應じて政府の與ふ得可き一切の利益を受くることを得せしむるなり。第九は各市が其れ〜一定特殊の商業若しくは重要物産取引を選び、是れを以て自己の

誇りと傲し、斯くて又た之れを極度に進歩せしめつゝあることなり、例へばフラツシングの西印度物産に於けるが如し。第十は全國土を擧げて英蘇の海岸に於ける漁業に従事し、是れに由りて無數の船舶及び海員を使用し、南歐の大部分に貴重なる貨物を供給しつゝあることなり。最後に擧ぐ可きものは彼れ等が葡萄牙人と争ひて之れに打ち贏ち、又た土人との戰爭に勝利を得、是れに由りて彼れ等を強要して他國民の一切を除外せる通商條約を締結せしめ、海陸の要處々々に要塞を建設するの許可を得て著々東印度全般の商業を壟斷せんとしつゝあることなり。彼れ等が斯くの如き成功を贏ち得たるは年々這般の航海に對して多數の大船を供給し、氣候の變化に由りて蒙れる多數人命の喪失を補充し得たる其の人民及び船員の夥多、全然該貿易に充用せられたる資本の廣大、一個の職業たるよりも寧ろ一個の國家たるの態度を以て之れを管理し來りたる東印度會社の經營及び努力、而して是れに由りて事實同會社の命令によりて統治せらるゝものなるも、而も他の點に於ては宛も獨立王國として印度諸國民に臨み、其の最大なる國王と宣戰講和を行ひ、而して少くとも海に四五十隻の戰艦を浮べ、陸に三萬の兵を動すを得る

に足る一國家を印度地方に建設せるに由れるものなり。(ibid., pp. 223-230)。

五

是に至りて、Templeは自家の貿易平衡論を述べて曰く、貿易は富を生ずと云ふは決して不變の準則に非ず。蓋し一國民をして貧窮ならしむるの貿易存し得可きが故なり。一國內に於ける貿易より發生せる富の唯一確實なる尺度は彼れ等自身の消費の爲めに輸入せられたる所のものと他國民の消費の爲めに輸出せられたるものとの割合なりと。而して斯くの如き割合に對し眞の基礎たるものは一人民の一般的勤勉及び節儉若しくは兩者の反對に存す。勤勉は農産物若しくは製造品の孰れかに於て内國貨物を増加し、是れに由りて輸出せらる可き資料を生ず。節儉は自國並びに外國貨物の消費を減少し、管だに後者に由りて輸入を減少するのみならず、前者によりて輸出を増加す。(ibid., pp. 230-231)。

次いで Templeは外國商品にして國外に於て自國貨物を以て購入せられ貨幣を以てするに非ざれば、其の輸入は一國民をして貧困の度を加へしむるものに非ずと做すの俗論に答へて、少しく考慮を費さば何人と雖も國際間に於ける計算の終りに於て輸入の價值に平衡するが爲めに輸出のそれに於て缺くる所のものは必然現金を以て決済せられざるを得ざるの事實を發見し、之れが爲めに直ちに前説の非を訂正するの必要に驅らるゝなる可しと論じたり。而して彼れは又た此の勤儉質素なる事實に於て和蘭人が致富の根柢を看出すなり。(ibid., pp. 231-233)。

即ち是れに由りて觀るに Templeは當時の一般マーカントリストと等しく時々貨幣を以て支拂はる可き國際貸借の差額あるものと信じたること明かなるのみならず、彼れは未だ特殊貿易平衡の説を排して、一般貿易のそれを高調するの境地にも到達し得ざりしが如し。而も彼れの任務は精細に貿易の理論を研究するよりも寧ろ更らに遡りて其の根元及び基礎を探究せんとするに在りしなり。John Kells Ingramが彼れを以て Charles Davenantと併置せるは固より失當の非難を免かれざる所なる可し。(A History of Political Economy, 2nd ed., 1907, p. 49. 參照)。

更らに Templeは以上の所言に照して、當時一般俗衆の間に行はれつゝある二三の通則がさまで確實なるものに非ざる所以を闡明せんとせり。第一は放逸及び奢侈を刺戟し奨勵するも自國貨物の消費に關する範圍内に於ては貿易に取りて

有利なりと做すものなり。洵に奢侈が内國商品に存するとせば、敢て有利には非ざるも而も其の外國商品に存する場合よりも不利益少なきものと云ふ可し。然れども奢侈及び浪費の習慣若しくは性癖は一定の限界に止まること能はず、内國貨物に始まれる所のものは應がて外國貨物に及ぶ可く、懶惰なる人々先づ其の範を示すと雖も、而も模倣は凡ゆる階級に侵入し、其の勤勉によりて國家を給養す可き人々にすら及ぶなり。加之ならず、吾人にして自國品を消費する所愈々多ければ、吾人が國外に送附す可きもの愈々少なる可く、斯くて又た吾人は廣大なる貿易を營みつゝあるに拘らず、販ぐ所よりも購ふ所多きが爲めに貧困と爲り、却つて吾人が甚少なる外國貿易を營むに過ぎざりし當時に於て購入する所に比して販賣する所頗る大なりしが爲めに其の隣邦に比して著しく富めるの事實を看るなり。(ibid., pp. 234-235.)

第二は外國の侵入若しくは支配に由りて和蘭の國家、從つて又た其の貿易が敗滅を來さざるを得ずとせば、後者は當然英國の占むる所と爲る可しと云ふに在り。然れどもそれは必然斯くの如き結果を生ず可きものに非ず。何となればそれは強大

なる人民集合の勢ひと、彼れ等の間に於ける一般的なる勤勉節約の氣風とに依りて曾つて和蘭に之れを吸收せるに等しき諸般の事情が大多數結合して之れを招致す可き凡ゆる土地に移る可きこと明かなるが故なり。(ibid., pp. 235-236.) 第三は此の國が或る強大なる國家の領土と化するが如き大窮迫に陥れりとせば、彼れ等諸州、若しくは少くとも其の最富裕なる臨海の諸州は凡ゆる他のものよりも英國の征服を欲するなる可しと云ふに在り。然れども彼れ等は完全なる征服によつて分割せらるゝことありとするも、決して合意によりて彼れ等自身を分割することなく、悉く皆な其の歩調を共にし、共同の協約によりて、縱令一國家としてには非ざるも、一領土として其の國土の爲めに彼れ等の能ふ限り最善なる協定を行ふなる可し。而して彼れ等が斯くの如き窮狀に陥るの前に於て、彼れ等は先づ神聖羅馬帝國の一部と爲り、是れに由りて此の強大なる國家の保護を受けんとするなる可し。果して然らんに、其の貿易は這個國家の變革によりて破壊せらるゝとなく、却つて其の維持及び増加を看るなる可し、蓋し彼れ等が國土の自由は依然として其の實體を持続し、其の安固は現在に比して却つて大と爲る可きが故なり。

(ibid., pp. 236-237.)

最後に掲ぐ可きものは縦令ひ外國の力を以てするも、若しOrange公にして此の國の元首たらんか、偉大なる君主と爲る可し、蓋し此の國は今に於ても偉大なる國家たるの觀あるが故なりと做すものなり。然るにTempleは却つて之れが爲めに是れ等の諸州が急轉して極めて賤劣なる國家と化す可きものと思惟せり。蓋し斯くの如き權力は強力を以て取得せらる可く、又た強力を以て維持せられざるを得ざるが故なり。是れが爲めに一般の不平を生ず可く、諸都市の間に於ける不斷の騷擾は私人の財産を危からしめ、政府の威信及び安固を動し、斯くて又た人民離散し、勤勉衰へ、銀行解體し、貿易萎靡し、終には彼れ等の最も殷盛なる都市をして昔日の漁村たらしむるに至る可し。(ibid., pp. 237-238.)

而してTempleの意見に據れば、此の國の貿易は何等斯くの如き大變革なきも、既に過去數年間に其の隆盛の極度を通過し、明かに衰頹の徵を呈するに至りたるものなり。是れが原因として觀る可きものは一にして足らず。第一には基督敎國の平和克復を見たる、かの一千六百四十八年のミュンスター條約以來爰に二十二、

三年内に、自餘幾多の國民は普く其の力を貿易の方面に展べたること、第二には和蘭東印度會社の偉大なる發達に由りて同國の貨物は世界の此の部分に購入し得る以上に増加し、是れが爲めに其の相場は必然減少せざるを得ざるに反し、印度地方に於ける同會社の收得を維持し擴張するに必要なる大戦争、軍隊、戰艦及び要塞等によりて其の費用は増加せること、和蘭人が市場の好況を待ちて賣出すが爲めに長く是れ等貨物の多量を其の國內の倉庫中に蓄積するの已むなきに至り、或ひは其の印度よりの輸出を制限し、又たは近く聞知せる所に據れば、巨額の肉豆蔻を燒却せるが如き皆な是れに起因するなり、第三には最近十數年間、恰く是れ等歐洲地方に在りては概して穀物の價格低廉なるが爲め、從來穀物に代へて印度物産殊に香料を。多量に購入したる北歐諸國が、今や其の穀物に對して受くる價值少なるに従ひ、彼れ等が香料に對して與へ得る所も亦た少なく、是れが爲めに和蘭人は一方に北歐地方に於ける其の印度商品の捌口を減少し、他方に於ては彼れ等が之れに代へて取得せる穀物の南歐地方に於ける取引を減少して多大なる損失を來せること、斯くの如き穀價低落の原因は豊年の持續よりも寧ろ一千六百五十九年

乃至六十年以後に於ける歐洲全般の平和に由るものゝ如し、而して最後にはアムステルダム市が廣大華麗なる謂ゆる「新市街」によりて著しく擴張せられ曩きには全然實業に供用せられたる資本の大部分を使用せざるを得ざりしのみならず、輒近同市に於ける多數商人の間に従前に比して奢侈浪費の惡風(原文 Vice は Vice の誤植と解するか、或ひは其の儘「生活」の儀に取る可きか、今考ふ可き資料なし)増長せるの觀あること是れなり。(ibid., pp. 238-246.)

其の An Essay upon the Original and Nature of Government. の劈頭に於て「人間の本性は總べての時及び場所に於て同一なるが如きも、彼れ等の身長、顔色、及び容貌と等しく、彼れ等の生育せる種々なる氣候の勢力と影響とに依りて一様にあらず、とは相異なる液體の混交及び空氣の作用によりて相異なり相等しからざる想像力及び欲情の徑路従つて又た推論及び行爲のそれを彼れ等の中に生ず。是れ等の相違は人々をして世界の種々なる國民を形成し支配する種々なる習慣、教育、輿論及び法律に向はしむるなり」(Miscellanea, by Sir William Temple, Baronet, the second edition, corrected and augmented, 1681, p. 45-46.)と觀したる Temple は、今爰に吾人が紹介の筆を運

べる Observations. 中に於ては外部的必要は必然性格を形成し、而して性格は一國民をして富裕ならしむるに必要な一切のものなりと信じたり。(吾人が以上に紹介し來りたる所並びに同書 chap. iv. 参照)。而して斯くの如き信念は宛も近き過去に於て其の眼を英國に注ぎたる獨逸經濟學者の如く Sir Walter Raleigh 以來其の注意を和蘭に向けたる一切の論者より彼れを區別する主たる特徴たるものなり。(J. D. Rogers, Article on "Temple," in Palgrave's Dictionary, vol. III, pp. 528-529.)

六

Temple が一千六百七十三年七月二十二日ダブリン附を以て愛蘭太守 Essex 伯に寄せたる書に An Essay upon the Advancement of Trade in Ireland. と題するものあり。此の書中に表れたる彼れの根本思想も亦た其の前著に於けると異なることなし。交易及び富の眞個自然の基礎は人民の棲息する地域に比例せる其の數なり。是れに由りて生活上必要な總べての物件は高價と爲り、そは又た人々を驅つて勤勉に赴かしむ。初め必要より生じたる這般の風習は次第に一國內に於ける常慣と爲るに至る。而して人民の勤勉なる處は、戰爭、疫病、又は飢饉の如き一定の事

變若しくは變革に由りて攪亂せらるゝに非ざれば、交易及び富の大を來さざるを得ず。人民は氣候の性質が生殖、健康及び長壽に適するによりて一國內に於て増大す。一國の人口は又た、彼れ等が善政の下に於て享有し得可き安全安易なる境涯によりて自國に在りては之れを享有し得ざる外國人を誘致するが爲めに増大するに至る可し。(Miscellanea, op. cit., p. 99-100.)

愛蘭の窮乏は人民の缺乏より生ず。而して同國に於ける人口の不足は氣候若しくは空氣の不良より生じたるに非ずして、主として幾多の戰爭、叛亂、虐殺、災害及び疫病に基けるものなり。久しきに亘りて此の國を惱しめたる頻々たる不祥の革命によりて其の國憲及び居住權の上に生じたる不信用は他國人の移住に對して大支障と爲り、優に其の國土の低廉豊富に基ける一切の誘因に打ち勝ちつゝありしなり。斯くて初め最近に於ける戰爭の必要上引入られたる英國人及び沒收地の分配に與りて此の地に居住せる山師、若しくは兵士の如き人々の多數を容るゝことなかりしならんには、同國は最近の戰爭及び疫病によりて幾分荒廢に委せられたるなる可し。更らに又た屢々移動を來しつゝある其の政府の從屬的狀

態は同國に於ける公共の利益の追求を不定ならしめ、諸黨與の競争専ら行はれて、或る時は一黨派若しくは一勢力に、或る時は他のものに政府の恩惠又は援護を與へしむるなり。這個政府の從屬及び黨派的競争は時に太守の權威の缺乏、朝廷に於ける其の信任及び援護の薄弱なるに基けると共に、愛蘭内に重要な權利を有する總べての人々をして斷えず英國に代理を置き若しくは旅行を爲すの必要に驅られしめ、そは屢々彼の地に於ける長時の滞在及び家族の居留と爲り、之れに要する貨幣は偏へに愛蘭より引出さるゝなり。其の他或る者は教育を受くるが爲めに、或る者は其の健康を求めて、又た或る者は氣候の快和若しくは風景の美に憧憬れて英國に赴き、是れが爲めに同國は國內に於ける最も富裕なる多數の人々若しくは家族の費用を損失し、巨額の貨幣は必然此の地を去りて英國に渡らざるを得ず。而してそは惟り此の地に於ける巨額の貴重なる自國產貨物によりてのみ償ひ得るなり。貿易及び富の増加に取りて有害なる這般の事情にして存せざらんか、人口の稠密及び勤勉によりて増加せしめられたる海陸の利は多數の良港及び各種の外國貿易に適せる其の地位の便と相俟つて必然此の國をして歐洲に

於ける最富裕なるものゝ一たらしめ、著しく英國王の稜威と收入を増加せしめたるなる可し。然るに同國は從來寧ろ英國の弱所を以て目され、吾人をして血と財寶とを費さしむる所、其の値する所よりも大なるものと看做されつゝありしなり。(ibid., pp. 100-104.)

Temple は貨幣の不足を救済するの策として愛蘭に於ける鑄貨の數種若しくは全部の價值を引上げんことを提唱する者あるを批難し、そは他の鑄貨を驅逐し、殘存せる高は稱呼に於て相等しきも、内在的價值に於て以前よりも低きが故に、却つて一般に其の缺乏を増加するに過ぎざる可しと論じたり。即ち這回の戰爭繼續し、海上の危険大にして、輸入に平衡す可き貨物の輸出は停止し、輸出の利益は冒險を償ふに足らざる間に於て殘少なき貨幣を此の國に保存するが爲めに施し得る策は先づ完全に自國産及び自國製に非ざる總べての物件に對し全國に亘りて出來得る限り節約の氣風を誘入し、次いで嚴烈不動の政府によりて現在の安寧及び居住權を一定の信用に於て維持す可く、最後に一切の人をして劫掠若しくは詐術によりて生活し得るの希望を有しむることなく、人々に一定の勤勉を強要するの

外なきものなり。即ち彼れは人體のそれに於けると等しく國家の一定の疾患に於ても、行ひ得可き總べてのものは食を斷ちて休養し、事故を注意して之れを豫防し、藥劑若しくは醫方よりも寧ろ手順に信を措き、病勢衰へ危機去りて自然に健康を恢復するの緒に著くを忍びて待つに在りと觀たるなり。(ibid., pp. 104-109.)

七

Temple は一國の交易を以て其の陸海の天産、製造品、港津の便宜及び船舶の夥多に發するものと思惟せり。従つて彼れは愛蘭に於ける交易の發達を論策せんと思はば須らく是れ等各項目の總べてを調査せざる可らずと做せり。(ibid., p. 110.)

凡ゆるマーカンチリストと等しく Temple は徹底せる國民主義者なり。彼れは愛蘭の爲めに其の實業の振興を圖りたりと雖も、而も同國の利益は常に英國のそれに對して従たるの地位に立てり。従つて愛蘭の實業が英國實業の或る主要なる部分と抵觸するに至る可き諸點に就きて特に注意を行はざる可らず。斯くの如き場合には這般の業務は須らく排斥若しくは制限を受け、英國に於ける業務の利益に途を讓る可きものなり。蓋し英國を王の方と富と榮とは主として其の實業

の健全と氣力とに依頼するの觀あるが故なり。然れども他方に於て縱令ひ英國其の者よりするも貨物の過大なる輸入は此の國の貨幣を驅逐して國內の交易を推進するに足らざるに至らしむるの虞れあるが故に、斯くの如き業務の或る者は全然之れを禁壓す可きに非ずして、寧ろ此の國の一般消費に資し得可き範圍内に以て之れを許容す可きものなり。即ち其の結果は同國人民の間に一般的不滿、怨嗟、又は少くとも政府に對する惡感を生せしめ、此の國の如く諸般の利害と等しく言語習慣及び宗教に於ても亦た著しく相違せる三個の國民より成れる國家に在りては、當だに同國に對してのみならず、又た英國自身に取りても危險なるものあること明かなる可し。(ibid., pp. 111-112.)

斯くて彼れは愛蘭に於ける亞麻糸製造業を獎勵し、其の發達によりて、佛蘭西國のリンネル工業に打撃を加へ、是れに由りて英國を去つて此の地方に赴きつゝある貨幣の多くを、愛蘭に於ける陛下の國民の手中に吸收せんことを欲したるも、然も毛織物業は之れを阻害して英國の爲めに保留せんとせり。即ち同業は精々、一二の夏物、愛蘭フリーズ及び六志乃至十四志の反物に就きて其の纒かに同國の一

般消費に應じ得可き高以上に此の地に於て獎勵せらる可きものに非ざるの觀あり。(ibid., pp. 113-115.) 彼れは一千六百六十六年の法令を以て畜牛の輸送を禁止せるは、當だに愛蘭の利益に非ざるのみならず、其の發布の目的たる英國の地代を引上ぐるの效果なきものと思惟せり。畜牛の輸送禁止以後、此の國の牧畜業は勢ひ他の徑路を發見せざる可らざるに至り、是れが爲めに幾多の土地は牧羊場と化するに至れり。此の法令は英國全體の利益よりも寧ろ同國に於ける特殊諸州の利益に由りて持續せられつゝあるの觀あるものにして、恐らくは永續すること能はざるものなる可し。即ち英國全體は明かに是れに由りて損失を蒙らざるを得ず。第一に總べての畜牛は英國船を以て輸送せられたる所なるが故に、其の運賃は正味英國の利得たりしものにして、そは其の價格の平均約三分の一若しくは少くとも四分の一に相當せり。第二に是れ等のものは曠の時代に輸送せられ、最初の市場に對しては極めて低廉なるが故に、飼養一ヶ年にして其の價格を倍加し、是れに由りて英國の牧場をして著しく其の效用を増加するを得せしめたるなり。最後に愛蘭は先には英國以外のものと貿易を營むと極めて稀れにして、其の畜牛

に對して得たる貨幣を以て彼れ等の欲求する一切の貨物を英國に於て購入せる所なるに這般の禁壓によりて外國市場を求むるの己むなきに至り、彼れ等は必然其の販賣を行へる處に於て又た購入を爲す可く、而して先きには彼れがブリストオ、チェスター及び倫敦より購入せる外國商品を早晩ルーアン、アムステルダム、リスボン及び海峽地方より購入するに至る可し。英國に於ける地代低下の眞原因は人口の缺乏、比較的上層社會の間に於ける強烈なる外國貨物の消費並びに全般の間に於ける生活の向上に存するものにして、這個愛蘭産畜牛の輸入に基けるに非ず。尙ほ又た羊毛の移入をも畜牛のそれと等しく禁壓するに非ざれば、畜牛の渡來愈々少なきに従ひ、羊毛の渡來愈々増加し、是れに由りて英國内に於ける牧場をして其の價格を低下せしむるに至る可し。而も羊毛の移入禁止は之れを外國市場に密輸せしむるか、若しくは羊毛業の發達によりて之れを毛織物たらしめ、直ちに此の重要な英國工業に打撃を加ふることゝ爲る可し。(ibid, pp. 119-131.)

Temple は愛蘭の馬匹を以て現在に於てこそ販路なきも將來に於ては管だに自國內に於ける用途を増大するのみならず、又た外國に對する輸出に適す可きものなりと思惟し、其の改良を唱道せり。(ibid, pp. 131-136.) 愛蘭の漁場は水底の鑛坑として觀る可きものにして、地底のそれの如く大富源たるに至る可きものなるも、同國を通じて人口の不足甚しく、生活必需品の價格低廉なる現在の狀態に在りては之れを改良すること不可能なる可しと觀たる Temple は這般の狀態の持續しつゝある間に於て斯業を發達せしむ可き唯一の策として、其の各州に漁業會社を設立し、之れに種々なる恩典を賦與す可きことを提唱せり。(ibid, pp. 136-139.) 之れに反し製鐵業を愛蘭に於て獎勵するは最も不得策と云はざるを得ず、即ち此の地に於ては鐵鑛を産することを聞かず、之れに利用し得可きものは單に燃料のみなるが故に、鐵工所は猶ほ廣大なる森林を有し、而も其の樹木が木材たるに適せざるか、若しくは其の運搬の便を缺けるの地に限定せざる可らず。(ibid, pp. 139-140.)

次いで Temple は貿易の基礎たる他の二要素、即ち港津の便及び船舶數に論及し、愛蘭は前者に於て富むと等しき程度に於て後者に於て缺けたりと做し、一はカリリに、他は北西岸に於て、西印度貿易の倉庫たるに至る可き二自由港の建設を提唱すると共に、船舶不足の原因を以て幾分造船用材の稀少に在りと觀たるも、更らに

此の國に於ける商人の不足及び貿易の不定に存するものと看做し、一方に於て樹木保護法の制定を説き、他方に於ては刻下の救済策として此の地に渡來し、爰に自己の一定の資本を供用する者には最初の二ヶ年間關稅を免除する等諸般の恩典を與へて之れを獎勵す可きことを建議せり。(ibid., pp. 140-143.)

八

洵に Temple は經濟上の萬能藥を人口の稠密に求めたり。而も彼れの人口學説は性格が外部的必要に依りて構成せらるゝは避け難き所にして、一國民をして富裕ならしむるに必要な總べては性格に存すと做すの信念を前提として生じたるものに過ぎず。當時大陸に於ても人口増加の必要を感ずること痛切なりしが如く、Veit Ludwig von Seckendorf は一千六百五十六年に出版せられたる其の有名な Teutscher Fürstenstaat, oder Gründliche und kurze Beschreibung, welcher Gestalt Fürstenthümer, und Graffand Herrschaften im Hlg. Römischen Reiche teutscher Nation, welche Laudes, fürstliche und hohe obrigkeitliche Regalia haben, von Rechts- und löblicher Gewohnheit wegen beschaffen zu seyn, Regiert mit Ordnungen und Satzungen, Geheimen und Justiz-Cantzleien, Consistorijs und andern hohen und

niederen Gerichts-Instanzen, Aemptern und Diensten verfasst und versehen und wie deroelben Cammer-und Hofsachen bestellt zu werden pflegen. に於て單に健全なる人民の數を増加するの目的を以て孤兒は固より、猶ほ其の親の生存しつゝある貧兒をも國費を以て養育す可き大育兒院の設立を主張せり。(ed. 1678, S. 203, Add., S. 179.) 洵に彼れに取りては國家政策の主たる目的は臣民の夥多に存し、そは又た國家の眞富と看做されたるなり。Johann Joachim Recher は其の Politischer Discurs von den eigentlichen Ursachen des Auf- und Abnehmens der Städt, Lander und Republichen, in specie wie ein Land volkreich und nahrhaft zu machen und in eine rechte Societatem civilem zu bringen, 1667. に於て一方に都市に定義して「榮養分に富める人口多き共同團體(nahrhafte volkreiche Gemeinthe)」と做せるも、他方に於ては殺人犯は人口を減少せしむるが故に處罰す可きものなりと做せり。(ibid., 21.) 其の女婿 Philipp Wilhelm von Horneck の Oesterreich über Alles, wann es nur will: Das ist wohlmeynender Fürschlag, wie mittelst einer wohlbestellten Landes-konomie, die kaiserlichen Erblande in kurzem über alle andere Staaten von Europa zu erheben und mehr als einiger derselben von denen anderen independent zu machen, 1684. に在りては第三の國家

經濟的根本法則は人民の最大可能なる増加及び就業なりと論せられたり。(ibid., 29 ff.)。國力を以て「土と物と人に」(in terra, rebus, hominibus)存すと稱したる Baron Gottfried Wilhelm von Leibniz は又た特に之れを人民の夥多に求めんとなり。(Verra regni potestas in hominum numero consistit; ubi enim sunt homines, ibi substantiae et vires.—Leibniz Opera, tom. iv. p. 502, ed. G. G. Dufens, 1768.) (Wilhelm Roscher, Grundlagen der Nationalökonomie, ed. 1900, S. 787.)。第十七世紀に於ける經濟問題は如何にして國家を富強ならしむ可きかに存し、近世的意義に於ける分配の問題は未だ以て當時に於ける學者及び論客の研究に上ることなかりき。彼れ等が研究の對象は「國民」にして「個人」には非ざりしなり。

斯くの如き傾向は第十八世紀に入りても猶ほ持續せり。Jochim Georg Darjes は其の Erste Gründe der Kameralwissenschaften, 1756. に於て「乞食の増加と雖も彼れ等の支拂ふ間接税によりて (durch die Accise) 國庫に何物かを齎すものなり」云々 (ibid., S. 379.)。Jahann Heinrich Gottlob von Justi 亦た其の Staatswirtschaft, oder systematische Abhandlung aller ökonomischen und Kameralwissenschaften, die zu Regierung eines Landes erfordert werden, 1755.

に於て、何等遲疑する所なく、一國の人口は如何なる場合に於ても過大なりと做すこと能はずと稱せり。(ibid., I. S. 160 ff.)。Joseph Reichsfreiherr von Sonnenfels は其の Grundsätze der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft, 1763-1767. に於て「人口の原理は四國家科學の全部に亘りて其の最高なる原則なりと呼べり。(ibid., I. S. 25 ff.)。當時の論者が貿易の平衡を重視したるは其の輸出財を以て最大なる人口に業務を興ふる國民が最も有利なる結果を生ずるものなりと解したるが故なり。(v. Sonnenfels, op. cit., II, SS. 210 ff., 354 ff.)。Roscher, op. cit., Ss. 787-788)。

尙ほ英國に於ても早く國內産業の見地より貿易の平衡を論ずるの傾向ありしことは吾人が曾つて「デヴィッド・ヒューム」の「貿易平衡論」(三田學會雜誌第十四卷第八號所載)に於て論述せる所なり。洵に當時に在りては一國産業政策の主要なる目的の一として觀る可きものは最大多數の人民に業務を興ふるに存すと思惟せられしなり。(François Véron de Forbonnais, Recherches et considérations sur les finances de France, depuis 1595 jusqu'à 1721, 1758, I, p. 351.)

然れども斯くの如き時代を通じて過度の人口増加は其の國家を強固ならしむ

ると否とを問はず、必然非常なる災害を誘起せざるを得ず、統治者は國力を擴張するが爲めに個人の幸福を犠牲たらしむ可き權利を有するものに非ずと做すの感情は最も眞面目に社會問題を考察しつゝある人々の間に發生しつゝありしなり。宮廷及び之れに附隨せる者が其の豪奢なる生活と戰勝の光榮に酔はんが爲めに人民の安寧を危からしめて顧みざる佛國に於て特に反動を生ず可き理由存したるなり。(Marshall, op. cit., p. 176.) 會つては Maréchal de Vauban すら其の *Projet d'une dixme royale*, 1707. に於て臣民は國王を利得せしむることなくして子を産むこと能はずとの言を作さしめたる (*Les Economistes financiers du xviii siècle*, p. 150.) 佛國に於ては今や Anne Robert Jacques Turgot によりて傭主は「彼れが常に勞働者の多數に就きて其の撰擇を行ふが故に、最も低廉に勞作せんとする者を選択せんとす。斯くの如くして爰に勞働者は相互の競争に驅られて彼れ等の價格を引下ぐるに至る。而して凡ゆる種類の勞働に關し、勞働者の賃銀は彼れの生存を得るに必要なものに限定せらるゝの結果に到達す可きものにして、又た事實に於て然るものなり」との言を發せしめ (*Réflexions sur la Formation et la Distribution des Richesses*, § vi.) 更らに

フイッシュオクラート學派の中心人物 François Quesnay をして「人は人口の増大よりも寧ろ國民的所得の増加を企圖す可きものなり、蓋し豊かなる所得より生ずる比較的大なる安慰の状態は人口が其の所得を超過し、而して常に生存資料の緊切なる必要に驅られつゝあるものよりも寧ろ取る可きものなり」と主張するに至らしめたり。(Maximes générales du Gouvernement économique d'un Royaume agricole, 1763, Maxime 26.)

然れども第十八世紀の英國思想界に於ては猶ほ Temple 流の人口論は依然其の主潮たるの觀を失はず。クロインの僧正 George Berkeley は其の *The Querist*, containing *Several Queries, proposed to the Consideration of the Public*, 1735-1737. に於て「有爲なる市民の產生に優りて公共の休戚を有するものありや否や」と問ひ (Qu. 206.) 又た「人民の夥多は勤勉に對する方便にして又た誘因なり」と説けり。(The Works of George Berkeley, formerly Bishop of Cloyne, edited by Professor A. C. Fraser, 1871, vol. ii, p. 187.) Joseph Harris 亦た其の *An Essay upon Money and Coins*, pt. i., *The Theories of Commerce, Money, and Exchanges*, 1757. に於て「國外に對する勢力と尊嚴と權威は主として國內に於ける勤勉なる住民の數に依頼す。限られたる數は富若しくは力の限られたる程度以上

を收得すること能はず」と做し、此の兩者を増加する方法の一として「子女を有する者に對し一定の特權を賦與するによりて下層階級の間婚姻を奨励す可き」ことを説けり。(ibid., p. 32)。而して佛國學者の影響を受くること大なりし Sir James Steuart は其の大著 *An Inquiry into the Principles of Political Economy*, 1767. の第一編に於て人口を論じ、明確に其の増減が利用し得可き食料の高の増減に従ふことを説明せりと雖も (ibid., pp. 17-21) 英國勞働階級が繁榮を極めつゝありし時代に *Wealth of Nations*. の筆を運びたる Adam Smith は人口問題に就きて言説する所極めて鮮少なり也。(ibid., Bk. I. ch. viii; Bk. v. ch. ii. 參照)。而も第十八世紀の末期よりして英國に於ける勞働階級の狀態が日一日と陰慘たる光景を展開し行くに伴れて、一方には人民をして其の子女を養育するの全責任を社會の上に課することを得るに至らしめ、富及び之れを生産するに要する勞働の平等なる分配によつて一般人民に知的及び徳的啓發の十分なる餘暇を與へ、理性をして人間の行爲を決定せしめ、聽がて又た眞理の平和的勢力に由りて圓滿幸福の世界を此の世に確立するに至らしめんとする共產主義者を出すと共に、他方には遍き物質的安易の狀態に於ては、實際世界に在つて生存資料獲得の困難に由りて制壓せらるゝ人口増加の傾向が何等の制限なくして發現し、缺乏は人口の増加に従つて來り、閑暇は忽ち消滅し、昔日の生存競争は再襲して、再び不平等の支配する世界を現するに至る可きを説く經濟學者を産するの時に逢著せるなり。

(一九三二年八月)